

1 はじめに

昨年度は、コロナウイルス感染症の拡大で、行事や活動が実施できないことや制限されることが多かった。今年度は、多少の制限がある中でも、児童が自分たちでできる活動を考え取り組むことができた。今年度、実施した活動を報告する。

2 実践内容

(1) 運営委員会の取組

運営委員会は、10名（5学年5名、6学年5名）で構成されている。例年継続している活動や、指示されたことは率先して行っているが、自主的・実践的な活動は少なかった。運営委員会を昨年度も経験した6学年児童たちを中心に、学校生活にある課題について話し合い、活動に取り組むようにした。

ア 「金小のきまり」の見直し

学校生活の課題を話し合った時に、友だちとのSNSや通信ゲームの使用時間に関する課題が出た。自分たちできまりを考えれば守る人が増えるだろうと、「金小のきまり」に追記することにした。はじめに、どのように活動をすればよいか、活動計画を立てた。次に、児童の実態を知るために、SNSや通信ゲームに関するアンケートを実施した。そして、アンケートの結果を基に、使用する時間などについて話し合った。ふり返りを見ると、きまりを守る児童が増えた。

イ NO！いじめ集会

友だちとの関係やいじめについて考える時間があればいいと、運営委員会の児童が話し合い、集会を行った。集会の前に、各学級でいじめをなくすためにどうすればよいか話し合ってもらい、スローガンを決めた。集会当日は、各学級のスローガンの発表と、いじめを題材にした絵本の読み聞かせをして、低学年にもわかるように説明をすることができた。



NO！いじめ集会

(2) わんぱく集会

今年度は、縦割り集団での「わんぱく集会」を月に一度、実施することができた。グループの6学年児童が、コロナ渦でも遊べる内容を、本やタブレットから調べ、工夫をしながら運営をした。子ども会などの活動が少なくなった中で、縦割りでの集団遊びの日を楽しみにしている児童の姿が見られた。



わんぱく集会

3 成果と課題

- どの取り組みも児童たちが自主的に取り組んだことで、達成感を味わえたようである。自分たちで学校をよくしたいという気持ちが表れてきたため、継続していきたい。
- 計画や話し合いにじっくり検討する時間をとることが難しかった。学校全体の課題を扱う場合には、代表委員会も活用していくとよい。